氏　　名	**HAMAGUCHI Lorena Cecilia（ﾊﾏｸﾞﾁ ﾛﾚﾅ ｾｼﾘｱ）**
学位の種類	博　士（芸　術）
学位記番号	甲第24号
学位授与日	平成21年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
論文題目	**A Sculptor’s Cosmogony**
審査委員	主査　教　　授　　諸　川　春　樹
	副査　教　　授　　本　江　邦　夫
	副査　教　　授　　安　倍　千　隆
	副査　神奈川県立近代美術館 普及課長　太　田　泰　人

内　容　の　要　旨

人間は生命の神秘と世界の成り立ちを表現するために物語、伝説、伝統などによって神話を作った。とくに宇宙の創造を説明する神話は Cosmogony、宇宙起源論と呼ばれる。私の彫刻家としての目標は個人的な自然観を基礎にして、独自の小宇宙を組み立てることである。

まず第１章では大自然のすべての形を目的があるものと考え、その形がもたらす美の感覚にさまざまな隠された概念があるとして、とくに彫刻家の観点から形の意味を考察した。
次に「元型」と造形的創作におけるその重要な意味について考察した。カール・ユングによって提唱されたこの「元型」は、人間の集団的無意識の内部にあり、神話、儀式、象徴の形成に大きな影響を及ぼすものと考えられた。
さらにある形や構造が、異なった本質の物の中に絶えず再現するパターンに言及した。パターンは物理的であると同時に精神的なものでもあり、我々の記憶と個性の基本である。それは神話と民俗学の中に表れている。大自然のパターンは調和的宇宙論を生みだすが、それが応用された作品ではその解釈にも影響することに触れた。

第２章ではアンデスと他の文化における生命の起源や世界の構成、神聖な場所の意味を考え、それらがどのように現代美術の中に表現されたかを明らかにした。
最も一般的な考え方は世界を Axis Mundi に通じる三分割された空間（天上界、現世、

および地下界）とするものである。Axis Mundi は門の役割を果たし、しばしば垂直の形として（山、臍帯、柱、槍など）アニミズムの宗教を行う文明に表れるが、この概念は 1951 年にミルチア・エリアーデによって最初に提案された。
アンデス山脈の宇宙起源論でも宇宙あるいは「Pacha」は相補的な三つの部分に分割され、天上界はHanan Pacha、人間の世界はKay Pacha、地下界はUku Pachaと呼ばれる。
また古代人は時間については一方向ではなくて、宇宙と地球の周期と共に進行すると信じていた。神話の主な神々のうち１人が「母なる宇宙」を意味する Pachamama であり、土地の肥沃と豊穣の守護神である。毎年、地球の周期にあわせて Inti（太陽神）は Pachamama を肥沃にして、新しい Pacha を生み出すのだ。
建築と宗教が密接に関係づけられたチャビン文明では、それは Chavin de Huantar 神殿に表れている。それは神聖な場所として巡礼の中心地であり、健康や農業の問題について神霊に相談できる場でもあった。
彫刻は大昔から美術的表現として存在し、巨大な彫像、高いトーテムなど多様な作品に人間の信条が反映され、神聖な役割を与えられてきた。現在私たちは機械化された社会に住んでおり、その考え方も現代の科学技術の進歩に裏付けられたものになっているが、もし古代人の想像力を再発見することができれば、私たちは本来の人間の精神性を取り戻すことができるのではないだろうか。

第３章では、技術と理念の融合を私の制作の実際に即して考察した。私は素材を混合することに対する興味があり、その「反応」が重要だと考えて制作している。すべての作品制作は新しい実験でもある。ことに炭酸ガス型鋳造の技術には創造的な可能性がある。なぜアルミやブロンズで鋳造するのという疑問に対しては、水銀のように揺れ動くことができるアルミはさわやかな風、海の波を表し、一方溶ける時に頑強な溶岩のように重く流れるブロンズは大地のマグマと豊富を示すからだと答えることができる。
鋳物すなわち鋳型に流し込んで作った物の内部は見ることができないが、空洞か否かを問題にしながら私は形の内部について検討し、内部には彫刻の内密の世界が表れていることを理解した。
完璧で単純な形である球体に言及し、球体の展開としての作品制作を紹介した。それが開いたり、捩れたり、閉じたりして内部を展開することと、私自身の宇宙起源論が平行していることを明らかにした。彫刻は人間精神の表現であり、想像力を形にしたものだ。と同時に、そうしてできた作品の中には、大自然のみなぎる生気が振動していると考えている。
本論は創造プロセスにおける実際的、理論的、精神的な面を総合的に考察した試論である。それは、いわば球体から組み立てられた構成を完成しようとする試みだが、その球体は個人的な小宇宙の動力であり、言い換えれば生命の象徴と考えてよい。

最後に鋳造の鋳込みの機会に、作品の制作が大自然の動力と有機的な関係があることに気づかされたことを述べた。三人が一体になって融けた合金を鋳込んだ瞬間に、私たちはしなやかな自然力を得たかのように、永遠の世界にいるような気持ちになったのである。それは鋳造にも、古代の儀式性が備わっていることのあかしであろう。